

令和8年度全国学力・学習状況調査が4月23日等実施され、大東市の全公立小学校の6年生744名、中学校の3年生720名が調査に参加しました。

調査内容は、国語、算数・数学、英語による「学力調査」、児童・生徒に学校生活や家庭生活の様子をたずねた「児童・生徒質問調査」、各学校の取組み状況や教職員の意識についてたずねた「学校質問調査」の三つからなっています。

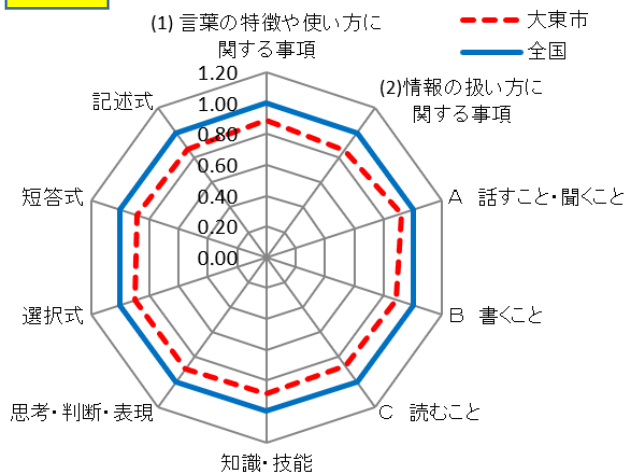
本調査で測ることができるのは児童・生徒の学力の一側面ではありますが、教育委員会では、分析した調査結果を学校での「授業改善の工夫」および児童・生徒の「学習意欲と学力の向上・基本的生活習慣の定着」に役立てるとともに市の教育施策に反映させてまいります。

問 教育研究所 ☎870・9107

小学校 平均正答率

全国を1

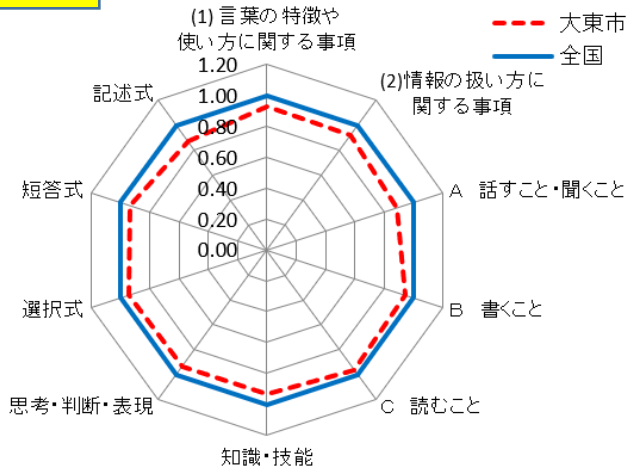
【国語】 大東市 54%



中学校 平均正答率

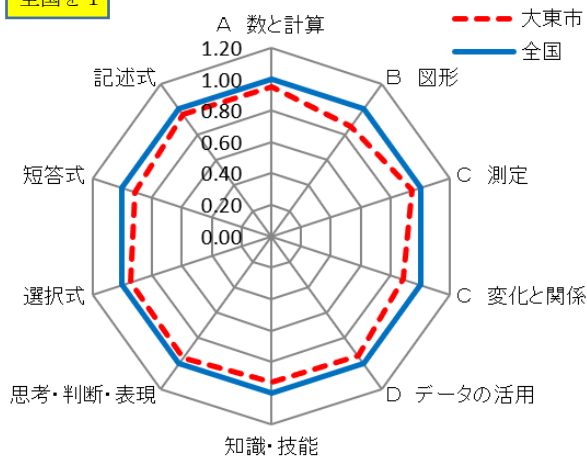
全国を1

【国語】 大東市 60%



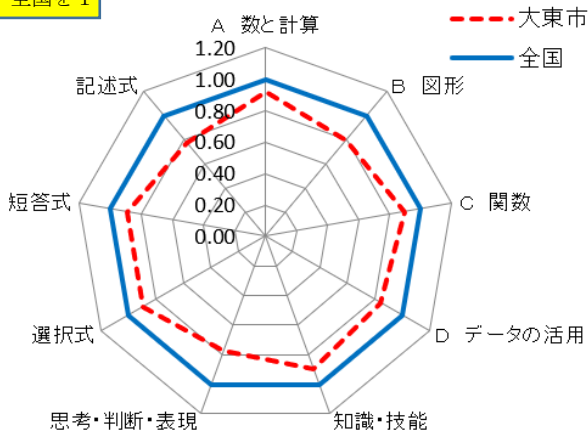
全国を1

【算数】 大東市 53%



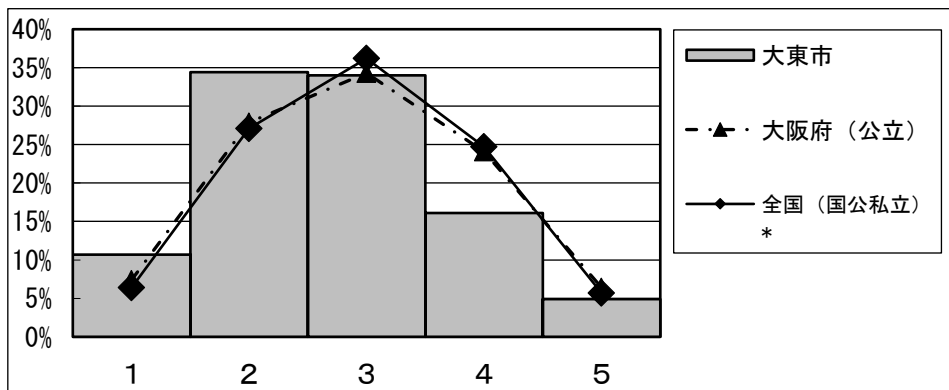
全国を1

【数学】 大東市 50%



全国が 499

【英語】 大東市スコア 469



小学校 学力調査の結果より

【国語】

課題であった漢字の書き取りは全国水準と同等の結果であり、改善が見られています。一方で、資料から読み取ったことを基に、自分の考えや経験を表現する問題には課題が見られました。複数の資料を見比べたり、読み取ったことをまとめたりすること。その内容を基に、自分の考え・経験をまとめて表現する活動が求められます。

【算数】

基本的な知識・技能については「数を四捨五入して概数で表す、整数と小数の減法」などでおおむね良好な結果が見られました。一方で「図形領域の問題、比較量や基準量、割合」を扱う問題については、依然として課題が残されています。学習の中で具体物を扱ったり、日常生活と結びつけて理解させたりする指導の工夫が、引き続き求められます。

中学校 学力調査の結果より

【国語】

読むことが最も全国平均との差が小さく、文章の内容をつかむ力がついてきていることが分かります。今後は読み取った資料や情報を活用して、根拠をもとに自分の考えを説明したり、読み手の立場に立って文章を整えたりする力の育成が求められます。

【数学】

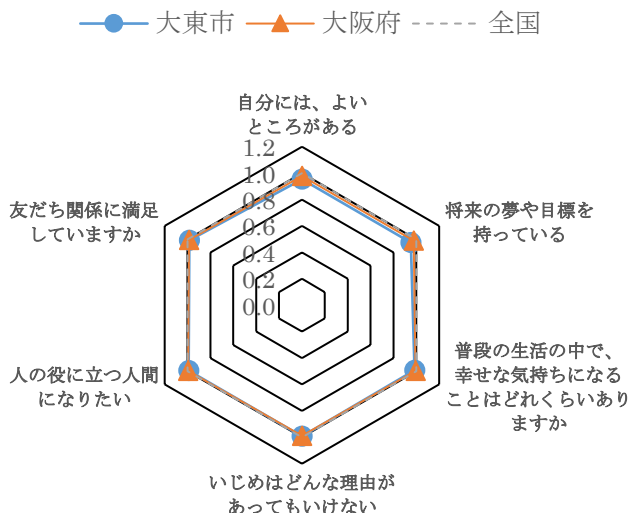
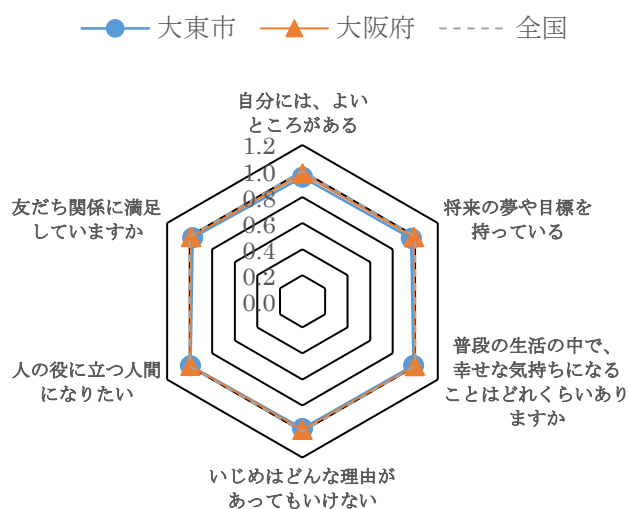
昨年度より全国差が縮まりました。しかし、「図形」領域の問題や記述式問題については、課題が残っています。具体物を使ってイメージを膨らませたり、なぜそうなるのか、数的な表現を用いて説明したりする時間の設定が求められます。

【英語】

CBT（一人一台タブレット端末を活用したテスト）方式で実施されました。従来の形と違う IRT バンドで結果が表示されます。

児童・生徒質問調査の結果より

大東市教育委員会では、大東市教育大綱及び「だいとう教育ビジョン」の「大東のめざす子ども像」の実現に向けて、日常的に授業改善に取り組んでいます。



これまでの「学び合う」授業づくりをとおした、子どもどうしのつながりの醸成や、学校・家庭・地域の丁寧な関わり等により、子どもたちの生活習慣や自己肯定感・規範意識等、集団の一員としての生活態度や自覚が育まれています。アンケート結果を見ると、全国と同程度の数値となりました。「いじめはどんなことがあってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」など、肯定的回答が90%を超えている項目が複数あります。

今後、変化の激しい社会の中で各々が他者と協同して生きる力を育成し続けるためには、子どもを取り巻く学校・家庭・地域が一層連携し、さまざまな場所や場面での、多くの人との多様な経験をとおして、子どもの成長を促し、見守ることが重要です。